

C-20 ローリングカラーに関する研究（衿腰と衿先きの開きについて）
東京学芸大教育 石毛フミ子 ○森谷多恵子

目的 ローリングカラーにおいて、製図段階では衿の形状を決定する大きな要素である、衿先きの開き寸法と衿腰の高さは不明確である。本実験ではこれらについて、製図と出来上りの関係、材質の違いによる差異について考察し、数理的関係を明らかにし、衿製作の合理性をはかる事を目的とした。

方法 製図 直線裁ちによる方法と肩を重ねる方法を用い、くり寸法、重ね寸法は0、1、3、5、7、9、11cmの7種とし、衿幅は前中心で6cm、後中心で7cmとし、衿先きの角度は直角とした。

実験材料 ベンベルグ羽二重、ローン、ブロードクロス、デニムの4種。

測定 人台に着用させ、肩と後中心における衿腰、衿先きの開き寸法を両製図法によるもの、各々ランダムに5回ずつ測定した。

結果 直線裁ちによる方法では、くり寸法が多くなると衿先きの開きは小さくなり、衿腰は低くなった。衿先きの開きの最大は11.3cm、最小は8.9cm、衿腰の最大は3.3cm、最小は1.4cm程度であった。肩を重ねる方法では、重ね寸法が多くなると衿先きの開きは大きくなり、衿腰は高くなった。衿先きの開きの最大は6.2cm、最小は3.2cm、衿腰の最大は2.0cm、最小は0.5cm程度であった。双方共に材質間には差が認められた。また肩における衿腰と後中心における衿腰との間には、くり寸法、重ね寸法に関係なく、一定の割合がある事がわかった。